

- 平成28年10月28日（金）
- 担当課 商工観光課
- 担当者 伊坂、高橋
- 電話番号 0480-33-1111（内線307）

杉戸宿高札場復元プロジェクト 住民と学生らにより「杉戸宿高札場」が復元されました！ ～杉戸宿高札場完成式典を挙行政します～

杉戸町と町観光協会は、杉戸宿開宿400年を記念し、「時を超えた新たなシンボルと、杉戸宿の歴史を体感する場の創造」を目的に、かつて杉戸宿にあった「高札場」を製作・復元する「杉戸宿高札場復元プロジェクト」を、日本工業大学とともに進めてまいりました。

そこでこの度、10月30日（日）の「杉戸宿開宿400年宿場まつり」の会場において、下記のとおり、「杉戸宿高札場完成式典」を挙行政いたします。

記

■杉戸宿高札場完成式典概要

- 1、日時 10月30日（日） 10時10分より（15分程度）
- 2、場所 「杉戸宿開宿400年宿場まつり」ストリートステージ前杉戸宿高札場復元場所
（所在地：杉戸町清地1-2-129脇 ※JA埼玉みずほ杉戸中央支店駐車場脇）
- 3、内容（次第概要）

除幕	・杉戸町長 古谷松雄
	杉戸町商工会会長 新井 武
	杉戸町議会議長 坪田光治
	日本工業大学特任教授 波多野 純
	棟梁 木村三樹男
	杉戸町区長会会長 高橋 明

感謝状贈呈・・・代表：日本工業大学

日本工業大学、棟梁 木村三樹男、埼玉県建築士会杉戸支部長 折原 勉、 有限会社篠原材木店 篠原達幸、株式会社篠原商店 篠原勝雄、 埼玉県建築士会杉戸支部 針ヶ谷豊、日本書道院顧問 石塚秀石、 埼玉県立杉戸高等学校、昌平中学・高等学校、渡辺板金 渡辺良一、 蔭 伊坂義夫、(有)石塚石材、杉戸町建設協力会 （敬称略）

■高札場復元の進捗状況

期日	作業内容	作業の様子（状況）
7月15日(金)	現場清め	<p>■復元現場での安全と成功を祈願します。</p> 
7月19日(火)	墨だし（設置位置決定）、土木工事、地業、捨コン	<p>7月19日（火） 墨だし ■復元箇所を決定します。</p> 
7月25日(月)	石積工事	<p>7月27日（水） 基礎工事施工 ■高札を支える土台（基礎）を作ります。</p> 
8月1日(月)	基礎工事、木材加工作業（刻み）開始	
8月2日(火)	事業概要の説明 作業の公開	<p>8月1日(月) 矢来制作大工指導 ■日本工大学学生たちが大工の指導を真剣に聞き入ります。</p> 
8月9日(火)	基礎鉄筋工事	<p>■日本工大学学生が夏休み返上で頑張ります。</p> 
8月10日(水)	基礎コンクリート工事	<p>■現代の技術も取り入れ、後世に残るように...。</p> 
8月31日(水)	高札場上棟	<p>■基礎はほぼ完成！あとは加工された木材をくみ上げます。</p> <p>■組みあがった枠組みの大きさに一同驚き！古式ゆかしく上棟</p>   
9月1日(木)	仕上げ、板金工事等	<p>■完成間近！</p> 
10月30日(日)	完成式典	

■復元する「杉戸宿高札場」の概要

1、高札場とは

高札場とは、幕府が決めた法令や公定運賃を木の札に書き、高く掲げておく場所。
江戸時代の杉戸宿にも高札場があったことは、日光道中分間延絵図などで確認されており、掲示されていた高札は残っておりませんが、当時の高札場は現在跡地となっています。

【杉戸町に現存する高札】



※高札は個人所有のものです。

【杉戸町内にある高札場跡地】



※高札場跡地は個人宅であり、現在は古民家が残る。（場所は、日光街道沿いの杉戸宿と関宿城下町（現千葉県野田市）を結ぶ地点。）

【参考：高札場（鳴海宿高札場）】



2、復元設置場所

旧日光街道沿い※下図参照

所在地：杉戸町清地1-2-129脇（JA埼玉みずほ杉戸中央支店駐車場脇）

※今回、高札場を復元設置する場所は、高札場跡地とは異なります。



3、復元形状

横幅：6.01m 高さ：3.78m 奥行：1.8m 材質：ヒノキ、スギ

■復元事業のポイント

- 1、歴史的建築物の専門家である日本工業大学の 波多野 純 特任教授が監修
- 2、日本工業大学の学生が、設計や材木の加工、建方を体験
- 3、材木の加工は、町内の大工が直接指導
- 4、現場工事は、町の建設協力会や建築士会が学生との協働作業
- 5、材料の手配等も、町内の材木店や石材店などが協力

《ポイントイメージ》

